

オーダーメイド型講習会・まなびカフェ845

ー一人ひとりの「学びたい」に寄り添ってー

えんどう いずみ
遠藤 泉
(信濃町メディアセンター)

1 はじめに

医学分野に特化した信濃町メディアセンター（以下「信濃町」とする）は、日ごろからサービスの見直しやスタッフの育成のための試みを繰り返し行っている。とりわけ近年では、オンライン化が加速しサービスが多様化するとともに、一人ひとりのニーズに適したサービスの個別化が求められている。

元来、信濃町のサービスは利用者の個別の研究テーマに寄り添い、研究活動に深く関わる傾向があった。そのため医学図書館員の専門性を高め、医学分野における図書館員のスキルを磨き、スタッフ間での研鑽や知識・ノウハウの共有は欠かせないものとなっている。本稿では近年の信濃町の新たな試みとして、オーダーメイド型講習会¹⁾とまなびカフェ845について紹介する。

2 オーダーメイド型講習会

信濃町の利用者教育の詳細な歴史は慶應義塾図書館史Ⅱ²⁾（以下「図書館史Ⅱ」とする）を参照いただきたい。2003年に誕生した「電子リソース活用講座」の短縮版「電子リソースミニ講座」（以下「ミニ講座」とする）が開始したのは2009年だった。2015年以降のミニ講座は、PubMed・医中誌・EndNote・インパクトファクターのメニュー4種で、あらかじめ提示した日時において、個人あるいは少人数を対象に対面形式で実施された。

ミニ講座は、常に忙しくまとまった時間を作れない信濃町キャンパスの医学研究者・医療従事者にとって手軽に参加でき、利便性が高い一方で、メニューや日程が限定された講座であったことから、利用者にとっての選択肢の自由度はそれほど高くなかった。開催当日の無断キャンセルもあり、講座の担当者が半日レファレンスデスクで受講者を待っていても、一人も受講しないこともあった。また、1年間を3タームに分けてその都度広報を行ってい

たため、広報にかかる業務負担と受講実績が見合っていない部分も少なからずあった。

近年では、Webサイトから入手可能な利用の手引きなど各種ガイドも充実した³⁾ことで、ピーク時には年間100人を超えていた受講者数も減少傾向にあった。2023年度前期の時点で約10名にまで激減し、従来のミニ講座の形態が、利用者のニーズに適合していないことがわかった。そこで2023年10月よりミニ講座の後継サービスとして、利用者の申込みベースでのオーダーメイド型講習会を開始した。一人30分から受講可能であったミニ講座の手軽さを維持し、1年を通していつでも申込み可能で、受講は対面形式でもオンライン形式でも可とした。例えばPubMedと文献管理ツールの活用について1時間の講習会を行うなど、利用者のニーズに応じて自由に内容を組み合わせることができる。受講者に特定の研究テーマがある場合は、講習会後にオンデマンド検索相談や代行検索サービス⁴⁾など、さらなる相談対応につなげることもある。

2023年10月から2025年7月時点での実績は表1の通りである。2024年度は1年間で25回開催し、延べ33名の受講者となった。内容は多岐にわたるが、特徴的であるのは、従来のEndNoteのメニューをより大枠の「文献管理ツール」としてMendeleyを含んだ内容に拡げたこと、PubMedや医中誌の中級以上の内容として、「診療ガイドライン/システムティックレビューのための文献検索」を追加したことである。これらはオーダーメイド型講習会のメニューとして選択肢の一つになっているが、選択肢外の文献データベースの使い方についても、要望があれば可能な限り対応する。また2025年度からは、利用者が生成AIで作成した検索式を添削するメニューも選択肢に追加している。

受講者は大学院生以上の教職員がほとんどである。これは学部生には授業で医中誌やPubMedの使

表1 オーダーメイド型講習会の内容（2025年7月現在）

年度	回	所属	属性	人数	内容	形式
2023	01	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	PubMed・医中誌	対面
	02	看護医療・健マネ	修士学生	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	03	看護医療・健マネ	博士学生	1	EndNote	Zoom
	04	看護医療・健マネ	博士学生	1	PubMed	対面
	05	医学部/医学研究科/病院	学部生	2	文献管理ツール	対面
	06	看護医療・健マネ	修士学生	1	EndNote	対面
	07	看護医療・健マネ	博士学生	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	08	その他（通信教育課程）	学部生	1	Mendeley	対面
	09	医学部/医学研究科/病院	教員（臨床医学系）	1	EndNote	対面
	10	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	PubMed	対面
	11	医学部/医学研究科/病院	看護師	2	医中誌	対面
	12	医学部/医学研究科/病院	教員・研究員（秘書業務除く）	2	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	Zoom
2024	01	看護医療・健マネ	修士学生	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	02	医学部/医学研究科/病院	教員（臨床医学系）	1	Mendeley	対面
	03	医学部/医学研究科/病院	研究員（秘書業務除く）	1	PubMed・インパクトファクター・EndNote	対面
	04	医学部/医学研究科/病院	教員（基礎医学系）	1	Endnote	対面
	05	医学部/医学研究科/病院	教員（基礎医学系）	1	文献管理ツール	対面
	06	看護医療・健マネ	修士学生	1	PubMed・医中誌	対面
	07	医学部/医学研究科/病院	研究員（秘書業務除く）	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	08	看護医療・健マネ	修士学生	1	PubMed・医中誌	Zoom
	09	その他（SDM）	博士学生	1	文献管理ツール	Zoom
	10	看護医療・健マネ	博士学生	1	PubMed・医中誌	Zoom
	11	看護医療・健マネ	修士学生	3	文献管理ツール	対面
	12	看護医療・健マネ	修士学生	1	PubMed・文献管理ツール	対面
	13	医学部/医学研究科/病院	看護師	3	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	14	医学部/医学研究科/病院	教員（臨床医学系）	4	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	Zoom
	15	医学部/医学研究科/病院	教員（臨床医学系）	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	16	看護医療・健マネ	修士学生	1	PubMed・医中誌	対面
	17	看護医療・健マネ	博士学生	1	文献管理ツール	Zoom
	18	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	19	医学部/医学研究科/病院	研究員（秘書業務除く）	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	20	看護医療・健マネ	博士学生	1	PubMed・医中誌	対面
	21	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	文献管理ツール	対面
	22	医学部/医学研究科/病院	研究員（秘書業務）・職員	2	業績調査/業績リストの作成	対面
	23	医学部/医学研究科/病院	専修医	1	PubMed	対面
	24	その他（SDM）	博士学生	1	EndNote	対面
	25	看護医療・健マネ	修士学生	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
2025	01	看護医療・健マネ	博士学生	1	Endnote・Web of science	対面
	02	看護医療・健マネ	博士学生	1	PubMed・医中誌・Mendeley	対面
	03	医学部/医学研究科/病院	研修医	2	PubMed	対面
	04	看護医療・健マネ	教員（看護・薬学系）・博士・修士学生	8	PubMed・医中誌・文献管理ツール	Zoom
	05	看護医療・健マネ	博士学生	3	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	Zoom
	06	看護医療・健マネ	修士学生	1	医中誌	Zoom
	07	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	医中誌	対面
	08	看護医療・健マネ	修士学生	1	PubMed	対面
	09	医学部/医学研究科/病院	看護師	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面
	10	看護医療・健マネ	博士学生・学部生	2	PubMed	対面
	11	医学部/医学研究科/病院	教員（基礎医学系）	1	診療ガイドライン / システマティックレビューのための文献検索	対面

い方を案内する機会があることや、まだ本格的な文献検索を行う段階ではないことが理由かもしれない。信濃町キャンパスが軸足の健康マネジメント研究科生が学位論文の執筆のために受講することもある。

信濃町の利用者属性とオンライン化の加速を考慮すると、Zoomでの相談対応がメインとなるかと思われたが、思いのほか対面での受講を希望される利用者が多く、受講後アンケートでも「対面がよい」

という回答が見られた。またリピータも少なからずおり、同一利用者が複数回申し込むことや、受講後に頻繁にレファレンスデスクへ相談しに来る利用者もいた。講習会を通し自らの問題が解決されたといった成功体験が、レファレンス相談への心理的なハードルを下げ、さらなる問題解決のきっかけを生み出しているのかもしれない。

広報は主に年に2回、医学部の各教室にちらしを

ポスティングしており、それを見た図書委員の教員が興味を持ってレファレンスデスクを訪れることもあった。研究手法としてシステマティックレビューやスコーピングレビュー⁵⁾を行うことが多い健康マネジメント研究科では、教員や大学院生同士の口コミでサービスが拡がりつつある。同研究科では軸足となるキャンパスが信濃町キャンパスと湘南藤沢キャンパスで分かれているが、湘南藤沢メディアセンターからの相談を受け、オーダーメイド型講習会として信濃町で相談対応を引き受けることもあった。今後も利用者の要望や困っている状況に応じて、カスタマイズ可能な柔軟さを持つサービスの提供を目指したい。

このサービスは誕生後2年が経とうとしているが、しだいに課題も見えてきた。まず信濃町では別サービスとして類似した名称の「オンデマンド検索相談」があるが、利用者にとって両サービスの区別が付きづらく混同しやすい。また「講習会」という名称から、複数人でまとめて受講するセミナー形式と認識されることもあり、一人から気軽に受講可能であることがアピールしきれていない。そのためサービス名称変更について検討の余地はある。

さらに、受講後に「このようなサービスがあることを知らなかった」「せっかくWebサイトで案内されていても申込みフォームまでたどり着けない」等の意見をいただくことがあり、より多くの利用者にこのサービスの存在を知ってもらうために、多様な広報ツールを活用するなどの工夫が必要と考えている。

3 まなびカフェ845

信濃町では、スタッフの医学図書館員としての専門性を育成・維持することが必須とされる。信濃町の職員研修や勉強会に関する取り組みの歴史については、こちらにも図書館史Ⅱ²⁾にて詳しく紹介されているため省略するが、近年では1990年代から2000年代にかけて、「医学メディアセンター研究会」が発足し⁶⁾、1999年からは週に1回、開館前の25分間に行う輪番制の報告発表会「ワンポイント研究会」が誕生した⁷⁾。

名称や内容の変遷を経たものの2000年代前半にスタッフによる勉強会は途絶え、その後のスタッフの研鑽は日本医学図書館協会（JMLA）の研修や、各自の担当業務にかかわるセミナーを受講することなどが中心であり、なかなか担当外の業務についての知識を得たり、スタッフ全員で信濃町の課題や問題

点を共有したりすることが難しくなっていた。そこでスタッフの提案により、2023年10月より輪番制の勉強会を開始することとなった。

この勉強会の名称はスタッフからの意見を募ったり、生成AIを用いて候補を出したりした結果「まなびカフェ845」とし、隔週水曜の8時45分から15分程度を目安に、事務室内で各自が選択したテーマで発表するが、ワークショップ形式の際は館内マナビバのセミナーエリアを活用する。なるべくスタッフの負担を軽減するために、配布資料等の用意は不要とし、1回の発表で2名が担当してもよい。開始当初から2025年7月までの発表テーマは表2の通りで、40回を超え現在も継続している。

表2 まなびカフェ845発表テーマ一覧
(2025年7月現在)

開催日	発表テーマ
2023/10/11	信濃町メディアセンターについて事務長がいま考えていること
10/25	集合研修について
11/08	健康情報ひろば&診療ガイドラインについて
11/22	TS業務の困りごとあれこれ
12/13	インボイス制度とILL-IN請求書・入金確認
12/27	リニューアルについて
2024/01/17	KOMPASについて
01/31	早慶相互利用サービス拡大について
02/14	ILL-OUTの処理の流れ
02/28	管理職が出席する会議の紹介
03/13	生成AIに関する情報収集と検討
03/27	見える化プロジェクト調査協力&診療ガイドライン検索事例①
04/10	古医書目録の修正版PDF公開（作業内容とスケジュール）
04/24	山中資料センターの重複資料除籍作業について
05/08	見える化プロジェクト調査協力&診療ガイドライン検索事例②
05/22	日吉・信濃町メディアセンターの違うところ、同じところ
06/12	メディアセンターの広報戦略（広報手段・課題など）
06/26	信濃町メディアセンターの災害時の緊急対応
07/10	2025年・2026年電子資源契約の見直しについて
07/24	慶應義塾大学病院BCP方針（災害対応訓練に参加して）
08/28	Web協働選書への参加について
09/04	鍵の管理について
09/18	慈恵大&薬学メディアセンター出張報告
10/02	電子資料契約の動き
10/16	生成AI×ポスター作成
11/06	KOMPASサイトリニューアルの進捗について
11/20	集合研修WGの活動紹介
12/04	生成AIでおためし議事録作成
12/18	信濃町IDカード
2025/01/22	2025年度予算について
02/05	組織の比較/似てるところ違うところ
02/19	古医書目録電子化の進捗報告
03/05	信濃町の利用統計分析に向けて
03/19	健康情報ひろばの選書：ACPとグラフィック・メディスン
04/02	2025年度に実施するAI関連の取り組みについて
04/16	医学部史料委員会資料の概況と資料整理報告
05/07	中期計画・事業計画について
05/21	MediaNet編集委員会あれこれ
06/04	第1回生成AI勉強会
06/18	KOMPAS今昔
07/02	第2回生成AI勉強会
07/16	メディアセンター協議会報告

現在は発表順の大枠を担当単位でパブリックサービス、テクニカルサービス・総務、パブリックサービス、健康情報・事務長とローテーションしている。割り振られた担当内で誰が何について話すかを決めるが、予定されている発表以外でも、タイムリーなテーマがあればローテーションに適宜組みこむ。発表スケジュールは共有フォルダのスケジュールシートで管理されており、自分が発表できるテーマや、聞きたい発表テーマがあれば発表候補シートに書き溜めておく。

当初は発表するテーマがなかなか決まらないのではないかと、担当業務やキャリアによって発表者に偏りが生じてしまうのではないかとといった心配の声もあったが、人事異動などによるスタッフの入れ替えや担当交代等もあり、現時点では発表テーマは枯渇していない。また常に図書館を取り巻く環境は変化しており、トピックとなる話題が絶えることはなく、とりわけ近年は生成AIが爆発的な発展を遂げていることで、生成AIとメディアセンターのサービスや業務がどのように結びつき、今後どのように活用できるのかを考えるための発表や勉強会も複数回にわたって開催されている。



図1 生成AI勉強会の様子

先述の「ワンポイント勉強会」では、メディアセンター所長や薬剤部といった多様な属性の参加者が見られた。実現は難しいかもしれないが、まなびカフェ845の今後の展開として、医学部や病院スタッフとのつながりが生まれるきっかけを作るべく、メディアセンターの垣根を超えた勉強会へと発展させることも視野に入りたい。

4 おわりに

本稿では近年の信濃町の取り組みの一環として、オーダーメイド型講習会とまなびカフェ845を紹介した。オーダーメイド型講習会は、従来のあらかじめ決められたスケジュールやメニューで申込みを募る形態から、利用者ごとの申込みベースで自由にカスタマイズできる講習会へと変容を遂げた。まなびカフェ845では、2000年代前半で途絶えたスタッフの研究会を、およそ20年ぶりによりカジュアルな形で復活させた。これら2つの取り組みの共通点は、個々の困りごとや知りたい気持ち、学びたい気持ちを尊重し、問題解決へとつなげる仕組みへと再構築した点である。

このように信濃町では、ある時はすでにあるサービスをリニューアルし利用者サービスにつなげ、またある時はいったん途絶えたスタッフの勉強会を新たな形で再開することに成功した。著しく変化する環境の中で、現状を適切に評価・分析し、問題解決のための糸口を模索し試行錯誤を繰り返す。そのためには変化への適応はもちろん、自らも変化を生み出すことを恐れぬ姿勢を培うことが求められるだろう。

注・参考文献

- 1) 慶應義塾大学信濃町メディアセンター. “オーダーメイド型講習会”.
<https://www.lib.keio.ac.jp/med/service/seminar.html#A01>.
- 2) 慶應義塾図書館Ⅱ編集委員会. 慶應義塾図書館Ⅱ. 東京, 慶應義塾大学メディアセンター, 2023.
- 3) 慶應義塾大学信濃町メディアセンター. “キャンパス別探し方ガイド (信濃町メディアセンター)”.
https://libguides.lib.keio.ac.jp/snm_home.
- 4) 慶應義塾大学信濃町メディアセンター. “レファレンスサービス”.
<https://www.lib.keio.ac.jp/med/service/reference.html>.
- 5) ライフサイエンス分野で多用される研究方法論で、特定の疑問やテーマに基づき系統的・網羅的な文献検索を行い、抽出した文献を評価・分析する手法。どちらも文献レビューではあるが、それぞれ目的や疑問となる問いの範囲が異なる。
- 6) 吉井由希子. 医学メディアセンターにおける職員勉強会について. MediaNet. 1996, no. 4, p. 47-49.
- 7) 岡野純子. 慶應義塾大学医学メディアセンターにおける研修の一例: 医学メディアセンターワンポイント研究会. 医学図書館. 2001, vol. 48, no. 1, p. 26-29.